

平成 28 年度【社会福祉法人泉学園】事業報告

今年度は法人制度改革に向けた準備の年として、定款の改定、評議員選任解任委員会の発足、新役員選任に向けた準備等を進めてきた。関係者のご協力を得て順調に新たな制度に沿った整えを進めることができたと考えている。この6月には新たな役割を担う理事会及び評議員会が発足する予定となっている。今後も当事者の願い、ご家族の思いに沿った事業をと願う私ども泉学園の理念と歴史に則った障がい者福祉の礎を築いていきたいものである。

今年度の具体的な事業としては宿泊支援付きのグループホームが新たにスタートした。2月には定員男女各7名、短期入所も8月を目途にスタートの予定である。ふれあいご家族を始め、首を長くして待っておられた方々にとっては希望の年度末であった。支援スタッフも概ね揃い、定員もほぼ充足し、新たな入居者にとって一日も早く落ち着いた穏やかな日々になるようにと、管理者を始めとしたスタッフが奮闘する日々となっている。

また、現況報告でもふれた通り、津久井やまゆり園での悲しい事件や地震や風水害等自然災害が多くなってきていることに鑑み、事業所の安全管理や災害対策が問われた年でもあった。私ども利用者の命を預かる福祉現場がリスク管理や災害対策をしっかりと議論し必要な対策をとることを今後も念頭においておかなければならない。

デイセンターなずなの10周年を祝う集いも開催できた。記念式典の方は、多くのご家族、ご利用者の参加も頂き感動の一日となった。記念誌の発行ができずに終わっていることが残念である。今後も、重症の方々の命と暮らし、地域生活を支える大切な役割を担う事業所としての歩みを期待する。

法人事業全体では引き続き経営面で厳しい状況が続いている。重度化、高齢化の中で、支援現場の人員配置の厚さが求められ、国の配置基準では支援が不十分となる現状も伺える。国の進める報酬等の体系の見直しもぜひお願いしたい心境である。

I. 当年度法人運営の重点に沿っての振り返り

① 福祉サービスの充実と支援スキルの醸成

この課題への取組みとして、上記のように今年度は宿泊支援付きの新たなグループホーム整備を進めてきた。当初の洲崎の計画は先方との折りがつかず頓挫する格好となったが新たな協力者を得て、今年2月には当初の計画同様、GH用にと設計段階から関わらせて頂き、新築のアパートを泉学園のグループホームとして使用する計画が実現に至った。ふれあいご家族を中心に長年の願いが実現した形となりホッとしている。支援スタッフの確保や経営面での難しさはあるものの、ご家族の高齢化等で家庭での生活に難しい状況が生まれてきている昨今にあって、ニーズにお応えできる大きな一歩といえる。

スキルアップへの取組みとしては、法人全体での取組みはもとより、各事業所内の研修等を通して日々実践されてきた。事業計画でも書かせて頂いたように、今の時代にあっても、サービス論から来る目新しさや便利さの競い合いの中での支援の充実ではなく、当事者の人生に寄り添う共に生きるものとしての支援の充実を目指すものでありたいと考える。

② 福祉人材の確保を進める

泉学園に限らず、人手不足、人材不足は深刻なものがある。この一年を振り返っても、3次募集まで行い採用試験を実施することとなった。それでもなお、数名ではあるが今だ欠員が埋まらない状況がある。採用試験応募者は11名、新卒者は6名に止まった。昨年度からリクルートワーキングGを事務局付けで発足、新卒者獲得に向けた動きをかなり強めてきた中であっての現状は厳しいものがある。少子化の中で、又、福祉職の待遇が今一つと言われる中で、優れた人材の獲得に繋がらない負の環境は当面続くものと予想される。また、数年勤めても他法人や他職種への転職者も何名もあり、日々、障害者福祉の魅力や生きがいに繋がる仕事の面をどう伝えていくか、当法人の運営に携わるにあたっては考えていく必要がある。泉学園に職を得、日々利用者と共に頑張っている若い支援者が、やりがい、働き甲斐をもって仕事に臨んでいける職場であるようになっていきたいものである。

又、サービス管理責任者研修の受講や社会福祉士実習指導者講習等、将来の人材確保や人材育成を視野に、計画的に押し出しも図ってきた。

③ 引き続き待遇の改善を図る。

平成 27 年度から現処遇改善加算（1）を申請し、定期昇給と合わせたものが前年度基本給与ベースより 27,000 円程改善できることを目途に加算財源をつかって待遇改善を図ってきた。又、当法人としては国の処遇改善対象職種に限定せず、週 20 時間以上の勤務者全ての職員に該当職種に準じた待遇改善を図ってきたところである。あわせて加算支給条件となっているキャリアパス要件を制度化、研修や環境要件も制度化し、条件整備を進めてきた。研修計画においては更に経験年数別の研修を工夫し、時間も平日の夕方を使ってするなど実施した。

④ 各種委員会活動

平成 28 年度も従来からの委員会～法人研修委員会、尊厳と権利推進委員会、ボランティア地域交流委員会、福利厚生委員会、バザー委員会、『泉だより』編集委員会、リクルートWG（事務局付け）が1年間活動し、法人事業の質の向上に向けてそれぞれの役割を担ってきた。毎月の事業所責任者会議の席においても必要に応じて報告や情報交換を進めてきている。

II. 具体的な事業実施

宿泊支援付きグループホームのあらたな整備

予定どおり完成し、事業開始は2月。所有者→姫井工業株式会社、借主→社会福祉法人泉学園。建設協力金として1,600万円支出。グループホーム名「こかげ」男性定員7名、「つぼみ」女性定員7名、短期入所定員2名（8月実施予定）、各部屋とも個室、食事の提供や入浴支援等。現在、14名定員は充足している。夜間支援職体制として男女各寮に1名配置している。

デイセンターなずな 10周年祝賀会

現況報告にてふれているように地元関係機関や支援学校関係者、ボランティア、ご家族ご本人、なずな旧職員等で開所10年を祝う。何よりもご本人、ご家族に喜んで頂けたことに感謝したい。

法人研修の実施

6月18日（土）人権に関する研修『差別憎む文化づくりが始まった』弘徳学園 重利氏。
7月27日（水）『支援者としてのスキルアップとは』松岡氏。 4年目から7年目。
9月21日（水）、10月5日（水）『私の事業所私の夢』 8年目以上。
10月20日（土）福祉施策の動向、グループ討議、ビデオ鑑賞 今年度採用職員
11月29日（火）『私のにやりほっと』2年目から3年目。
2月17日（金）「私が求める上司とは」「事業所の評価と課題」。主任以上役職者等
3月25日（土）平成29年度新採用職員研修会。法人の沿革、差別解消法と現場の支援、愛生園見学等
事業所間交流研修～平成28年11月～平成29年2月まで延べ5名の参加

評議員法人内事業所見学

現況報告の資料でもふれたように10月7日と11月4日に法人内各事業所を評議員の方に見て頂く企画を実施した。それぞれ特徴ある事業の実際を見て頂き、今後に参加になったと喜んで頂いた。

補助金による車両の整備等

泉の園～JKAによる10人乗りの車両整備、総額2,663,817円、内補助金額1,725,000円
ネイチャーファーム～岡山県共同募金会による就労支援活動用車両整備、総額1,090,000円、内補助金450,000円

III. 今年度法人役員会等

理事会、評議員会

平成28年5月27日・・・平成27年度事業報告及び決算、運営規程の変更、管理者の変更等

平成28年7月6日・・・役員の変更、運営規程の変更等

平成28年11月25日・・・上半期現況報告、平成28年度補正予算、泉学園定款の変更等

平成29年3月10日・・・平成28年度補正予算、平成29年度事業計画、当初予算

「評議員選任・解任委員会」の選任、評議員候補者の推薦、定款細則

の変更、役員・評議員の報酬規程の変更について他
(内容によって理事会のみの議題等あり)

平成 29 年 3 月 22 日・・評議員選任・解任委員会開催

IV. その他

10 月 26 日 泉の園実地指導～前回報告済み

2 月 3 日 法人本部・泉の園指導監査～文書指摘事項はなし

平成28年度【泉の園】事業報告

はじめに

平成28年度は相模原市の障害者支援施設での殺傷事件や、認知症高齢者グループホームの台風被害により、大勢の尊い命が失われる出来事があった。特に相模原市の事件は同じ障害者支援施設ということで大きな衝撃を受けた。これまで防災対策は行ってきたが、防犯に関しては無防備な状況であった。事件後は夜間の見回り、施錠の徹底を行うとともに、パトロールや防犯講習会等で岡山南警察署、浦安駐在所の協力を仰いでいるが、今後も自力で避難することが困難な利用者の命を守るには何が必要か考え、施設の防犯対策や防災対策について関係機関との連携を図りながら施設整備も含め見直しや改善を行っていききたい。また利用者や職員のいきいきとした姿が地域の中にあることの大切さをあらためて意識し、活動に取り組んでいききたいと思っている。

運営面では、高齢化、重度化に対応する取り組みとして人員配置を2.5:1から2:1にし、夜勤職員の配置も常時3名体制としてこれまでより手厚い支援体制にした。また栄養健康状態の維持、向上を図ることを目的に栄養マネジメントを導入した。その他活動や行事等については事業計画に沿って大きな変化はなく取り組むことができたが、心身の状況の変化により介護度が増したり、加齢に伴い転びやすくなっている方もおられるので、これまで以上に健康面、安全面への配慮の徹底と、介護のスキルアップをしていく必要がある。

1 利用者状況

障害支援区分	6-36人	5-18人	4-6人	平均障害支援区分5.5
在籍数	生活介護-60人	施設入所支援-47人		
平均利用率	生活介護-102.7%	施設入所支援-97.7%	短期入所-31.8%	
平均年齢	生活介護-41.9歳(通所者-29.1歳)	施設入所支援-45.4歳		

2 支援活動(グループ活動)

シリウス①	(12人)	(ウォーキング、ストレッチ、散策、ドライブ、ミュージックタイム等) ・ストレッチは個々に合わせたメニューを取り入れて機能低下防止に努めた。 ・ミュージックタイムは火曜日に音楽療法の講師の方に来ていただき実施した。表情良く楽しんで参加される方が多かった。
シリウス②	(11人)	(ウォーキング、ストレッチ、散策、空き缶回収、ミュージックタイム、ドライブ等) ・午前中は個々に応じた活動、午後は散策、ドライブ等の活動を行った。活動内容をわかりやすくし、個々のペースに合わせていく等の配慮を行った。
アリエス	(15人)	(刺子、プレートビーズ、キャップやボールペンのマッチング、パズル、箱折等) ・複数の題材の中から各自がしたい題材を選び取り組んでもらった。文字・絵等を使って内容を説明し、個々の意欲を高め、達成感や成功体験を感じることができるよう支援を行った。それが一人ひとりの自信にも繋がった。
コンパス	(12人)	(空き缶回収、空き缶プレス、資源回収、ミュージックタイム等) ・夏場、冬場は気温の状況に応じて室内活動に変更する等の配慮を行った。 ・火曜日のミュージックタイムを楽しみにして、表情良く参加される方が多かった。
オリオン	(10人)	(園庭花壇の整備、野菜作り、ホール掃除、散策、サンプルブック仕分け等) ・室外の活動が多いため、夏場、冬場は気温の状況に応じて配慮を行った。 ・野菜作りは野菜の成長を観察し、収穫、販売まで行い、意欲的な活動になっていた。

3 自治会活動

代議員会	木曜日(15:30～16:00)－行事の計画、掲示物作成等を行った。
ホームルーム	月曜日午前－代議員が皆の意見を聞き、行事についての連絡、代議員会の報告等を行った。
行事	誕生会(毎月第4水曜日)を企画し実施した。その他おやつ作り(6月)、花火大会(7月)、団子作り(9月)、泉まつりジュース販売(10月)、焼き芋大会(11月)、おしるこ作り(1月)、豆まき(2月)、自治会総会(3月)等の行事を行った。
当番活動	ペットボトルキャップの回収・納品を行った。
人材育成	代議員会等を通じて利用者の代表意識が育った。
アンケート	利用者アンケート～暮らしの満足度～を行った(9月、3月)

4 余暇・文化活動

活動予定作成	月計画・週計画・土・日・祝祭日及び長期特別活動時の余暇計画を作成した。
買い物	日曜日に園周辺の徒歩外出、自動車外出(天満屋ハッピータウン、イトウゴフク、エディオン岡南店、フタバ図書等)を行った。
クラブ	金曜日午後－お茶、絵画、運動等の活動を行った。
行事	花見・母の日の手紙(4月)、端午の節句(5月)、父の日の手紙・おやつ作り(6月)、七夕・水遊び・参議院議員選挙(7月)、納涼行事・DVD上映会・カラオケ大会(8月)、岡山県知事選挙(10月) ゆうあい文化祭見学・ボウリング招待(11月)、浦安小学校作品展・餅つき大会・年賀状作り(12月)、とんど焼き(1月)、バレンタイン(2月)、ひな祭り・ホワイトデー(3月) ※その他カレンダー作り、壁面飾り作成等を行った。
ビューティータイム	女性利用者を対象として、身だしなみ・ネイルケアを月1回実施した。

5 生活支援

基本的な生活習慣の支援－障害特性、加齢等の状況を考慮し、利用者の個別支援指針を作成して職員間の共通認識とした。

生活班講座－利用者を対象に歯磨き(5月)、夏バテ対策・熱中症予防(7月)、食事マナー(11月)、風邪予防(2月)の学習会を開いた。

リラクゼーションタイム－ADLの向上や楽しみながら体を動かすことを目的とし、タオルを使用した関節のストレッチや上半身、下半身の運動、ボールを使用したマッサージを月1回実施した。

6 保健・看護

通院件数－869件(昨年838件)、訪問歯科件数－266件(279件)
入院日数－利用者2名125日(昨年利用者3名136日)
健康診断一年2回(7月、1月)実施、がん検診(38人)、検便一年3回実施
インフルエンザワクチン接種－11月(56人)

7 給食委員会

年4回、給食委託業者の栄養士も交えて献立の内容等を検討した。

食事は普通食に加え、刻み食(一口大・荒刻み・極刻み)、ミキサー食、アレルギー対応食等の個別対応を行った(個別対応が必要な方が年々増えている)。

リクエストメニューは6月、11月、2月に実施した。

栄養健康状態の維持、向上を図ることを目的に栄養マネジメントを導入し、個々に栄養ケア計画を作成して栄養に関するケアとマネジメントを行った。

8 防災委員会

岡山南消防署合同避難訓練及び査察(11月29日)ー消防機関へ通報する火災報知設備は自動火災報知設備の感知器の作動と連動して起動すること(猶予期間:平成30年3月31日)との指摘があった。

避難訓練ー5月、6月、7月、9月、10月、11月、2月、3月に実施した(風水害、地震・津波、夜間・夜間想定 of 訓練含む)。

救急法学習会ー心肺蘇生法の学習会を行った(1月27日、職員23人参加)。

9 人権擁護委員会

職員に虐待防止チェックリスト等を使ったアンケートを年4回実施し、人権擁護(虐待防止)に対する意識の向上を図った。また実習生にもアンケートを行い、外部からの視点で意見をもらうことで職員の気づきに繋がった。

人権擁護(虐待防止)に関し、全職種の職員が参加する学習会を6月と1月に実施した。

10 行事

障害者スポーツ大会、浦安学区盆踊り大会、泉まつり、レクリエーションフェスティバル、クリスマス忘年会、お飾りづくり、社会体験旅行

11 施設実習

県下大学・短大・専門学校より19人(昨年22人)、年間79日(昨年84日)の受け入れを行った。

12 短期入所及び日中一時支援

短期入所ーのべ利用者数232人(昨年461人)、日中一時支援ーのべ利用者数217人(昨年101人)

13 ボランティア受け入れ

行事を中心に約50人(昨年50人)、その他ギターコンサート、余暇支援等のボランティアに来てくださった。

14 多目的ホールの貸出

泉の園家族会(4月、5月、7月、9月、10月、12月)、親子クラブ(11月)

15 苦情解決

ヒヤリハット	投薬関係ー2件(昨年5件)、離園及び利用者所在確認ミスー19件(昨年6件)、 ふらつきによる転倒ー6件(昨年29件)、利用者間のトラブル及び粗暴行為ー9件(昨年8件)
事故	服薬ミスー18件(昨年22件)、利用者間のトラブルー14件(昨年14件)、転倒ー11件(昨年18件)、 離園行動ー7件(昨年6件)、事故怪我による緊急通院ー6件(昨年8件)
苦情	1件(昨年0件)ー職員の不適切な言葉に傷ついた。もう少し言葉に対する配慮をしてほしい(ご家族より)。

16 施設内研修

歯科学習会ー口腔ケアについての学習会を行った(10月28日、職員13人参加)。

防犯講習会ー相模原市障害者支援施設殺傷事件を受け、岡山南警察署より2名来ていただき防犯講習会を行った(12月16日、職員15人参加)。

嘱託医による学習会ー小児自閉症についての学習会を行った(1月13日、職員13人参加)。

※その他経験年数、職責等の対象別に実施された法人内研修に参加している。

17 施設外研修

- | | |
|-----|---|
| 4 月 | 中国地区知的障害関係施設長会議 |
| 5 月 | 市民のつどい／社会保険制度説明会 |
| 6 月 | 定期総会及び社会保険委員研修会／障害者支援施設部会(緊急集会)
安全運転管理者講習／全国知的障害関係施設長会議 |
| 7 月 | 備前圏域施設長会／県福祉協会サマーセミナー
公正採用選考人権啓発推進員研修会／中国四国地区知的障害関係職員研究協議会 |
| 8 月 | 社会福祉法人新会計基準セミナー／岡山県特定給食施設関係者研修会
制度改革セミナー |
| 9 月 | 給食施設従事者研修会／リスクマネジメント研修会 |
| 10月 | 障害者支援施設障害福祉サービス等事業所に対する人権研修会
岡山県総合社会福祉大会／岡山県相談支援従事者初任者研修
岡山県障害者虐待防止・権利擁護研修／社会福祉士実習指導者講習会 |
| 11月 | 働きやすい職場づくり推進セミナー／中国地区知的障害者支援施設部会研修会
岡山県サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者研修
制度改革対応セミナー／岡山県社会福祉施設等防災対策研修会 |
| 12月 | 岡山県障害者虐待防止・権利擁護研修／県福祉協会施設長会議
人権推進委員情報交換会 |
| 1 月 | 治療と職業生活の両立支援セミナー |
| 2 月 | 強度行動障害連絡会議／福祉サービス苦情解決研修会
アメニティフォーラム／人権セミナー
サービス管理責任者現任研修会／集団指導
社会福祉法人会計実務者決算講座 |
| 3 月 | 高齢知的障害者の地域生活継続支援事業報告会 |

18 施設等整備

公益財団法人JKA(競輪)から補助金をいただき、10人乗り車両(トヨタハイエース)を購入した。日々の活動や外出にとっても役立っている。

厨房のグレーチング及び床の修繕、換気扇の取替等の改修工事を行った。

19. 実地指導、指導監査

平成28年度指定障害福祉サービス事業所等の実施指導－10月26日

<文書指示指導事項>

医師の勤務状況を出勤簿等で勤務の実績とともに記録しておくこと。

指定障害者支援施設等は、施設障害福祉サービスの種類ごとのそれぞれの利用定員及び居室の定員を超えて施設障害福祉サービスの提供を行わないこと。

平成28年度社会福祉施設指導監査－2月3日

<文書指示指導事項>

なし

平成28年度【ネイチャーファーム】事業報告

はじめに

今年度もA型事業所として、日々の活動が将来を見据えた連動性のある取り組みであるよう留意し事業を進めてきた。長年にわたり取り組んできた苗花、パン製品による収益活動にひたむきに取り組む利用者、職員の姿に改めて継続して行く事の難しさや大切さ、働く事の意味を考える一年であった。総合支援法見直しの時期を目前に控え、様々な情報が飛び交う中、こうした日々の活動や努力が次年度の取り組みや結果に結びつけることが出来るよう、見直しの出来る報告としたい。

1 運営について

職員配置 7.5 : 1

管理者1名サビ管(兼務) 職業指導員3名 生活支援員1名 事務員1名 パート4名とし、事務員の産休、育休に伴い新たな事務員の加入があった。複雑な事務の引き継ぎ業務に日々追われながら事業運営に貢献されている。また各工房では、収益活動による利用者への工賃支払いを重視する事業所として日々の具体的売り上げ目標や将来を見据えた取り組みを継続。また販売先の開拓と両工房にある販売店舗の集客に重きを置いた活動を行い収益では花工房は例年どおり月平均100万、パン工房では目標の月平均400万を達成することが出来た。パン工房では収支は依然マイナス状態であるものの全体では黒字の月が前年度の4ヵ月から7ヵ月に増え、200万の差額増となっている。今期は共同募金助成による車輛購入、冷蔵庫老朽による買い替えも行っている、また経費や労務費などにも目を向け、材料の見直しも行い、商品原価も平均44%を維持できた。花工房では安定した収入の背景に作業場での直売も大いに影響しており、パン工房においても日々の製造に追われながらも安定した店舗販売に向け集客への思案をしている最中である。花工房では業者の卸苗の発育ミスや、近年の天候変化による生育不良、排水設備、運搬車の老朽による修理があった。その他職員の専門性や作業技術向上に向け様々な分野において研修、技術講習参加を実現できた。次期課題としては職員の増減になるが一時的な話し合いに留まり、計画した取り組みは出来ていない。しかしながら職員各々の日々責任ある職務態度には改めて感謝している。

2 利用者の状況について

花工房7名 男性6 女性1 パン工房14名 男性9 女性5 うち短時間契約者3名

花工房では11月に同法人より男性1名入社、夏場には熱中症により男性1名が救急搬送され、市には事故報告をしている。また精神的に悩みの多い利用者に対し継続した話し合いを常に行い、家庭、医療機関との連携により無理のない参加を促してきた。持病のひざ痛に対する不安が継続し、見守り支援を行っている。

パン工房では3月に男性1名が他A型事業所に転職され退社となる。難病を抱える方の為、経過状況を聞きながら見守る状況である。また病気による2度の入院、手術をされた男性(経過を見守り無理のない参加で見守り中)、持病の病気で行動制限のある女性2名に対しては体に負担の無い作業支援を要している。

その他一件、作業中の頭部損傷による軽い出血(消毒、カットバン処置)があり家族に報告している。

3 具体的作業内容

花工房

苗、野菜の育成栽培(例年同様の生産計画)。ハウス(作業場内店舗)での販売。各施設での委託販売、バザー委託販売、岡山市指定配布(年4回)市場出荷、生産者、業者への卸、学校地域団体受注、イベント出展(年間約25イベント参加)仕入れ業、請負植栽、下請け作業(ポットはせ)学校、地域を対象とした野菜収穫体験の受け入れ。今年度新規事業としては、公園協会主催の寄せ植え教室用花材提供、各イベントでの配布用の苗花発注、公費払いでの学校関係の受注が挙げられる。バザー販売はパン工房共に例年

以上の依頼を頂いたが職員フル参加以上の依頼にはやむなく断る状況もあった。

パン工房

製パン、製菓（焼き菓子など）による店舗販売、バザー委託販売、業者、施設売店への卸、委託販売、イベント、学校バザー委託販売、小学生対象のパン教室（社協主催）移動販売。新規事業としては、倉敷中央病院売店（7月～）トンボ販売、パナソニック、理大高校球技大会、運動会販売、瀬戸市民病院売店、北長瀬市民病院売店、保健福祉会館1F販売、他事業所へのパン卸。中でも倉敷中央病院売店では安定した収益が得られている。競争相手の多い場所でもあり予断許せない状況。

4 支援目標

職業指導

花工房では報連相の徹底と効率の良い作業展開。商品管理への意識向上や作業技術の支援を行う。パン工房では作業場、作業時の衛生環境、作業技術、効率向上、接客などを個々の支援目標に沿って支援している。

生活支援

両工房共に個別支援計画に沿って健康面や、精神的ケア等、個々に重視される支援を行った。また社会人として求められるマナー向上、各利用者の生活環境に携わる職員、家族との連携による様々なケースの問題解決をその都度行った。

福利厚生

利用者主体での活動を通し利用者会議を定期的に行い問題を話し合った。両工房年に2回の食事会を外食で行い、花工房は2泊3日の京都旅行、パン工房では来年度の1泊旅行に向けアンケートを行い計画中である。

5 設備面、器具備品について

花工房では休憩室の床をコンパネで応急処置、冬場の排水設備破損が見られた他、トラックの老朽化による修理。パン工房では共同募金助成により就労事業活動用車両整備、台下冷蔵庫の老朽による買い替えを行っている。

6 勤務計画について

職員、利用者共に就業規則に沿った勤務計画を行い、ひとつき毎25日締めで作成をしている。花工房においては、繁忙期、閑散期に応じた流動的に計画を行い、パン工房においては各々の出勤環境、作業能力、技術を生かせるローテーション勤務を作成し必要であれば勤務状況の変更も、本人、家族の同意のもとに行った。

7 その他

防災関連

年2回の避難訓練実施。

リスク管理

ヒヤリハット、事故報告の徹底を心掛け報告書の記入を呼びかけている。両工房での上記事故以外にパン工房でのガスの元栓閉め忘れあり。また商品へのクレーム、問い合わせも対応。パンでは衛生管理の徹底により異物による苦情が減少傾向にある。

健康診断

成人病検診（協会健保）、主治医による年一回の健康診断実施。インフルエンザワクチン接種、ストレスチェック（法人による）

苦情処理

今期はパン工房利用者の技術的な悩みへの不安対応に対する意見があり本人の勘違いである旨を説明し
了承されている。

家族会

5月の総会、年に6回の定例会議の他、花工房への年8回（延べ36名） パン工房には年5回（延べ
32名）の作業ボランティア参加を頂き、合わせて日々の家族による早朝の送迎やあたたかい声掛けなどを
頂きスタッフ一同感謝している。

平成 28 年度【桑野通所事業所】事業報告

〈桑野フレンドリーハウス（生活介護）〉

はじめに

開設 24 年目、ご利用されている方たちの平均年齢も 40 歳代に迫ってきています。あくまでも平均であって介護保険に手が届く方も見られています。ここ近年避けては通れない事案、今後の生活の場の選択が迫られている思いを強くした一年でした。平成 29 年 2 月に 2 つ目の夜間支援体制の整ったグループホームが開設されました。現在、2 つのグループホームでフレンドリーハウス 10 名・ワークプラザ 11 名の利用者が生活されています。ある意味、利用者やご家族にとって安心感を抱ける支援体制が整備されたと思われれます。

日中活動については、ライフステージにあったサービス内容の見直しについての検討の必要性があります。

精神的や肉体的に入院生活を強いられ辛い思いをされた方が居られた一方、日々の活動の中で笑顔を絶やさず活動できていた方も多く見かけた一年でした。

1. 活動目的

仲間や職員とのふれ合いを通して笑顔でいられる時間をより多く持つこと。また、作業や活動を通じて楽しさを感じ、豊かな心を培うこと、仲間や外部の方や支援者とのふれ合いの中で大人として成長していくこと、そして心身共に健康で健やかな毎日を送ることを目的としサービスの提供を行ないました。

2. 利用者状況について

定員 40 名、契約者 50 名でスタートしましたが、10 月 1 日よりワークプラザから女性 1 名が健康面の理由で事業所を異動されて来ました。3 月末に男性 1 名が入院先から他法人のグループホーム入居の為に契約解除されました。

・開所日数：261 日（内土曜開所 19 日）月平均開所日数：21.75 日

・利用者数：延べ 11,568 名 年間利用率：110% 平均年齢：38.47 歳(2/10 現在)

※利用者延べ人数については、業務日誌より抽出しており多少の誤差が生じているかも知れません。

3. 職員配置について

管理者 1 名(兼務)、サービス管理責任者 1 名、支援員 17 名（内パート 4 名）、看護師 1 名、事務員 1 名、運転手 1 名、調理員 3 名（兼務）、嘱託医 1 名でスタートしました。

配置については 2.5 : 1 とし、常勤換算職員は 17.0 名以上としました。

4. 活動計画について

今年度も昨年度同様、基本的に午前中はバイタルチェック後に作業、マッサージ、ストレッチ、歩行や散策を行いました。午後からは、リトミック、音楽、カラオケ等の活動やボランティアの方による講座等を行ないました。また、四季折々の行事や一日外出、小グループに分けての一日社会体験を行ないました。希望者には講座(お茶・踊り)に参加していただきました。一つひとつの活動の中では利用者の笑顔が印象に残る一年でした。

※利用者の障害支援区分（生活介護 29 年 4 月 1 日現在）※表 1

	区分 6	区分 5	区分 4	区分 3	区分 2	区分 1	未判定	計
生活介護	19	16	11	4				50
就労継続	0	1	10	7			3	21
計	19	17	21	11	0	0	3	71

〈桑野ワークプラザ（就労継続支援B型）〉

はじめに

工賃向上計画では、近年、作業題材や種目に安定性がなく、目標工賃の達成の見通しが見つからない為、計画に沿った作業収入のアップと工賃支給が達成されていません。現在は目標工賃達成加算の請求は行なっていません。商品開発や営業等の努力不足も原因に挙げられます。また、国の優先調達推進法やセルフ(社会就労センター)による共同受注等の施策も進展がなく当事業所にとって恩恵はありませんでした。一層の事業所努力が求められますが、利用者の現状を踏まえた時に工賃を伸ばす事よりも次第にと高齢化してくる利用者の作業種目について見直しを図る時期にきている事を痛感しています。

例えば、屋外での作業が多い中、年々体力の低下が進み、参加できる方が徐々に少なくなってきており、効率も落ちてきていることが挙げられます。結果的に当該年度をもって出向作業のコーポ清掃を利用者の方及び職員の負担が多い為に契約を解除しました。クッキーの製造についても前年度の生産高を保持する為にかなりの部分に支援者の負担を強いている現状を鑑み、今後の大きな課題となっています。

1. 活動目的

作業が中心の日課の中で仲間や職員とのふれ合いに生きがいを感じる方、月々の工賃に生きがいを感じている方など一人ひとりの活動目的は異なります。その違いをしっかりと受け止め日々の支援にあたっていくこと、そして地域の中での活動を通じ社会とのつながりや社会への貢献を実感していくことを目的としました。

2. 利用者状況について

定員 20 名、契約者 23 名でスタートしました。10 月 1 日に女性 1 名が健康上の理由からフレンドリーハウスに異動しました。同時に倉敷の就労継続支援B型を利用されていた男性 1 名と契約を交しました。また、長期にわたり家庭療養していた女性が他の事業所に通えるようになり 12 月 12 日をもって契約解除しました。年度末に発達障害をもつ男性 1 名を契約解除にしました。このケースにつきましては、発達障害と知的障害を合併した独特の個性が事業所内に大きな波紋をおよぼし、看過できない状況を作っていました。複数の事業所と協力して支援体制を作る努力を地域生活支援センターと共に動きましたが実現には至りませんでした。現在、彼は週 3 日 NPO の運営する生活介護事業所を利用し、残りの 2 日は小規模事業所の日中一時支援事業を利用されています。環境要因として彼にとって当事業所の規模が大きすぎたこと、よって刺激が多かったこと、彼の個性やニーズを受け入れられなかったこと等があげられます。泉学園の事業所が連携して少しでも前向きな支援を提供出来る体制を組む事も考えられましたが、小規模で刺激の少ない環境を保障することは難しいと判断し、その方向は探りませんでした。事業者側から契約解除を求めることは極めて稀なケースです。今後、何らかの機会があれば関わりを持っていきたいと考えます。発達障害の方の生きにくさ、集団での暮らしにくさ、このことは制度そのものを新たに見直し、彼らの特性や気質に合った形でサービスを提供出来るシステムを構築する必要性を強く感じています。

※利用者の障害支援区分については表 1(フレンドリーハウス末欄)のとおりである。

- ・開所日数：261 日（内土曜開所 19 日）月平均開所日数：21.75 日
- ・利用者数：延べ 5,134 名 年間利用率：89.4% 平均年齢：38.34 歳(2/10 現在)

※利用者延べ人数については、業務日誌より抽出しており多少の誤差が生じているかも知れません。

3. 職員配置について

管理者 1 名(兼務)、サービス管理責任者 1 名、支援員 5 名（職業指導員 2 名、生活支援員 2 名、目標工賃達成指導員 1 名）、事務員 1 名、調理員 3 名（兼務）としました。

職員配置については、基準上の常勤換算職員数 2.6 名（目標工賃達成指導員配置加算算定上は 3 名）に対して年間を通し 5.0 名の配置としました。

4. 活動計画について

作業については段ボールのバリ取り、箸入れ、土の封入、ふれあいセンター屋外清掃・花壇管理業務、防草シートの固定釘入れ、食品加工（クッキー製造販売）、出向作業（3 事業所・コーポ清掃を含む）を今年度も引き続き行ないました。また、生活介護との協働でのサンプルのシールはがしを行ないました。活動については年に 3 度、1 日を使った活動を提供しました。

また、希望者は講座（お茶、踊り）に参加しました。一日社会学習では、小グループに分かれての外出を行ないました。

〈事業所共通の取り組みについて〉

1. 年間行事について

年間行事については昨年度を踏襲し主だったものとして、各事業所毎の歳時行事、5 月：障害者スポーツ大会、10 月：ふれあいまつり、12 月：ボウリング招待(ネグザスボウル単独招待)・クリスマス会、その他各グループでの社会見学・社会体験等を行ないました。

2. 土曜開所について

ボウリング、カラオケ、散策、おやつ作り等々内容は昨年度を踏襲し年間 19 日を開所しました。

3. 工賃の支給について

ワークプラザについては、一時金を含めた総支払額は、3,127,050 円でした。

各々の欠勤(非工賃支払対象月)を勘案して割り戻した額は、12,120 円でした。

来年度への総合支援法の見直しが行なわれる中で中央では 1 万円を切る B 型事業所については、生活介護事業の生産部門で良いのではとのやりとりがあったと聞いています。当事業所もストレスのところです。

フレンドリーハウスについては手芸品、軽作業、ペットボトル等の収益を還元し、年間 2 回(前期が 2,000 円、後期が 3,500 円)支給しました。

4. 給食提供について

今年度も魚宗フーズとの業務委託によりサントピアからの給食提供を行いました。一食 500 円。利用者負担金 320 円。平成 30 年の単価見直しで提供加算が無くなるとの情報があり給食の提供の在り方について今後の課題となります

5. 健康管理について

今年度も心身共に課題を抱えられた方がみられました。健康については特にご家庭との連携の中で細かい配慮を行なうよう努めました。心のケアについても常にご本人の気持ちに寄り添いながら活動を共にしていきたいと思っています。怪我や事故についてはヒヤリハット等で環境要因や発生原因を共通認識し未然に防ぐように努めました。

6. 利用者の送迎について

送迎のニーズが年々高まっている。できる限りニーズにお応えしようとコース、時間、車輛調整を都度行ないました。車輛不足と車輛の老朽化が大きな課題となってきました。日産キャラバン 10 人乗りを新車(260 万円)に入れ替えました。

7. 地域交流について

昨年度同様百間川クリーン作戦への参加や、地区社協、敬老会での交流行事を行ないました。また、土曜開所等やふれあいまつり、様々な行事へボランティアの方に参加して頂きました。

8. 安心、安全な支援を基本にリスク管理の徹底をはかり、苦情・意見への迅速な対応に努めました。

今年度の件数は以下のとおりです。

ヒヤリハット：フレンドリー80件、ワーク18件。

事故：フレンドリー14件、ワーク2件。

車輛事故：フレンドリー5件、ワーク3件。

苦情：0件。意見：フレンドリー2件、ワーク2件。

9. 自己研鑽の強化と従業者の資質の向上

事業所内研修においてはストレッチやメンタルヘルスに関すること、虐待防止に関すること、心肺蘇生に関すること等をテーマとし実施しました。

出張研修においては昨年度を踏襲した研修会に参加しました。出張研修については職員の希望を反映できるように努めました。

〈日中一時支援事業（岡山市地域生活支援事業）〉

今年度は契約者3名、延べ81名の利用がありました。契約者数は年々減少しています。気軽に利用できる日中活動の場としてご希望があれば今後も積極的に受け入れを行なっていきたいと思えます。年度末で1名の方が契約解除され、来年度の登録者は2名となる予定です。

※利用者延べ人数については、業務日誌より抽出しており多少の誤差が生じているかも知れません。

〈今後の課題〉

来年度(平成30年度)には発表される法施行後2回目の3年目の見直しの結果を注視し、事業内容及びサービス提供内容の検討、事業の再編等の見直しが求められます。具体的には、就労継続支援B型事業の在り方や生活介護との位置付け、また、利用されている方たちの「生きがいの追求」と「意思決定の支援と自己実現」の中での事業の再編等の検討が必要と思われまます。サービス管理責任者の業務内容(利用者の出欠勤の管理や家庭状況の把握及び将来についての見通し)等です。それに伴い現在の事務の煩雑さの解消及び簡素化が図れるか、食事提供加算の有無による給食提供の内容及び単価の設定・運用の仕方等が直近の課題であるかと思われまます。

平成 28 年度【泉学園共同生活援助事業所】事業報告

はじめに

昨年度生じた利用者の金銭に関する人権侵害をふまえ、まずは利用者支援や利用者の生活に関する職員意識の変革を少しずつではあるが訴えてきた。また金銭等貴重品の管理体制を見直し、より厳重な手続きの中で預かり金の出納を行ってきた。唯、前者についてはまだまだ不十分であり、職員研修や第三者評価等でさらに支援のあり方を向上させていく必要がある。

そしてもう一つ、念願のショートステイ付きグループホームが完成し、2月より14名の利用者が新たな生活を始めた。利用日数が増えてきた方、笑顔が増えてきた方など少しずつではあるが前に進んでいる。

今年度はサテライトホームへ生活の場を変更した方をはじめ、新ホーム以外にも多くの方が新たな生活へチャレンジしてきた。ご本人の希望を反映させた結果であったが、これからも一人ひとり異なる暮らしのスタイルをしっかりと受け止めながらできる限り応えていきたい。

1. 住居・定員の変更、設備に関して

○平成 28 年 8 月 1 日よりサテライトホームを開設、1 名が入居する。

サテライト福富：定員 1 名 を新設

○平成 29 年 2 月、グループホーム青空を閉鎖し、グループホーム泉に統合する。

グループホーム泉：定員 4 名 に変更

○平成 29 年 2 月、グループホームこかげ、グループホームつぼみを開設する。

グループホームこかげ：定員 7 名 を新設

グループホームつぼみ：定員 7 名 を新設

○平成 29 年 2 月・3 月、段階的にグループホームはまのを閉鎖する。

○平成 29 年 2 月・3 月、段階的にグループホーム福富Ⅰ、グループホーム福富Ⅱを開設する。

グループホーム福富Ⅰ：定員 4 名 に変更

グループホーム福富Ⅱ：定員 4 名 を新設

泉学園共同生活援助事業所定員：46 名（平成 27 年度末）→59 名（平成 28 年度末）

〃 現員：55 名（平成 28 年度末）

空きホーム：グループホームニュービーネン 1 名、はちみつ 1 名、福富Ⅰ 1 名、

ひばり 1 名（平成 28 年度末）

消防法の改正に伴い、新規ホーム（サテライトを除く）については改正内容に適合する設備の設置を行った。

○グループホーム福富Ⅱ：小規模施設用連動型自動火災報知機を設置した。

○グループホームこかげ・グループホームつぼみ：連動型自動火災報知機・通報装置を設置した。

その他のホームにおいても平成 30 年 3 月末までに、消防法に即した修繕や設置を行う必要があり来年度の課題となる。

2. 利用者の状況について

今年度は、ホームで発作があり入院治療後も家庭で過ごされている方や、心臓疾患、内臓疾患、更には骨折とたび重なる疾患により入院治療された方等健康面で辛い思いをされた方があった。

またホームでの人間関係に課題が生じ長期的にホームへ帰れない方、ホームの環境が背景にあるのか、

精神的にまた情緒的に不安定な状況が慢性化している方については、2月の新ホームの開設に合わせ居住ホームの変更を行った。安定した生活が取り戻せた方が多かったが、他にもホームの環境や人間関係に苦慮されている方がおり、今後の大きな課題といえる。また一人暮らしを希望されサテライトホームへ異動した方についてもまずまず落ち着いて生活できている。

一方で、今年度も地域社会からの苦情や社会的に不適切な行動が多くあり都度対処してきたが、支援の強化を行いつつ地域社会や警察等関係機関との連携をとっていきたい。

利用者の入退所については次のとおりである。

平成28年8月に1名がひばり→サテライトホームへ、平成29年1月に1名が在宅→福富へ復帰、2月に4名が在宅→こかげへ、3名が既存ホーム→こかげへ、3名が在宅→つぼみ、4名が既存ホーム→つぼみへ、1名が在宅→ニュービーネンへ新規利用、2月・3月に3名が既存ホーム間での異動を行った。異動理由はご本人の要望や健康状態による。異動した方々や新規利用の方々においてはまずまず落ち着いた生活を送られている。他1名の方が体験利用を経験され新年度になり本利用につながった。

3. 職員体制について

5月末に生活支援員1名が退職した。7月に生活支援員1名が産休・育休終了により現場に復帰する。10月より生活支援員1名が法人内事業所へ異動した。1月に生活支援員1名を採用した。2月に生活支援員2名が法人内事業所より異動で加入した。

世話人については、今年度も年度途中で数名の方が退職したり入院したりと定着せず、常に欠員状況が続いている。夜間支援者もなかなか応募がなく確保できなかった。

2月より新ホームの開設に合わせ世話人の配置を6:1から5:1とし、生活支援員、世話人を前述のとおり増員したが、実際の現場においては不十分な支援体制が続いている。

管理者1名、サービス管理責任者3名(2名が生活支援員を兼務)、生活支援員9名(5名が世話人を兼務、常勤換算7.7以上に対し7.9)、世話人24名(常勤換算11.5に対し、11.5)、夜間支援員6名及び法人内事業所より5名に応援して頂いた。

4. 利用者支援について

- ①地域において入居者が共同して日常生活が送れるよう、食事の提供、健康管理、その他日常生活の支援を行う。
- ②入居者が地域住民として責任と誇りをもって生活できるよう支援を行う。
- ③入居者が安心、安全に暮らせるよう施設整備や地域との連携を行う。合わせて災害を含めたリスクへの対応策を具体的に講じていく。
- ④支援においては、地域で暮らす一住民として入居者の意思を尊重し、自己選択、自己決定をそれぞれの生活場面で実践していく。

以上を支援目標として取り組んできた。特に利用者の人権に配慮し、しっかり耳を傾けていくことを会議等で確認したが、まだまだ不十分なことが多く、研修や外部の目も入れながらさらに見直していきたい。また災害等の非常事態や利用者の不適切行為等地域生活を送る中で生ずるリスクについても地域や関係機関と連携していく必要性を大きく感じた。今後の課題である。

5. 苦情・ヒヤリハット・事故等リスクについて

○苦情について

- ・民家の庭へ放尿し厳しい注意を受ける。(地域住人から)
- ・生活に制限が多い。(ご家族から)

- ・ホームの利用者より不適切な行為を度々受けている。(コーポ住人から)
- ・会社の事務所に入り、不適切な行為を度々行っている。(会社社長、警察から)
- ・他の利用者からいたずらや不適切な行為を受けている。(利用者から)

○ヒヤリハットについて

服薬や薬に関すること、道に迷う、所在不明、転倒、怪我等 19 件

○事故について

車輻事故、他者の薬を服用する、所在不明、会社事務所へ入り不適切行為を度々行っていた、寺院のお賽銭を盗み拘留される等 11 件

6. 職員研修について

今年度は人権や利用者支援等に関する研修を行う予定であったが、グループホーム独自の課題にそった事業所内研修はほとんど行えなかった。法人内研修や出張研修へは例年通り参加を行ったが、今後はさらに法人内のみならず他法人事業所等へも職員の派遣を行うなど職員の視野を広げていきたい。合わせて他事業所からの現場研修も積極的に受けていき、風通しのよい事業所づくりを行いたい。

7. 事業所運営について

今年度は新たなホームの開設があり、経費（建設協力金や初度設備等々）や人件費等で大きな支出となった。年度途中から医療連携体制加算や福祉専門職加算をとり、そして新ホームの開設に合わせて世話人の配置を 6：1 から 5：1 に変更し収入の増加を行ったが、前述のとおりそれを上回る支出となり厳しい収支であった。また新たなホームの開設に合わせて空き部屋が数か所生じたことも収入の伸びにつながらなかった。

8. 来期への課題

利用者が安心して潤いのある生活が送れるよう、思いに寄り添った生活支援を行っていきたい。そして地域社会から不利益を受けることのないよう、地域との連携や障害理解を広げることも必要である。また経費はかかることになるが、防火設備の設置、修繕も消防署と協議しながら来年度末までに完了させなければならない。さらには経費の削減や、定員を充足し利用率を上げるなどで、経営状況の改善をはかっていきたい。

そして新設ホーム「こかげ」「つぼみ」へそれぞれ 1 名ずつ、ショートステイを開設する予定である。
(平成 29 年 8 月開設を予定)

平成 28 年度【岡山南障がい者相談支援センター】事業報告

1. (はじめに)

計画相談関係は、行政から更新時の勧奨により徐々に認知度は向上しつつあるのが現状であるが、実際の対応は需給の関係で対応できていないのが現状である。制度的には障害福祉サービスの利用に関して原則相談支援事業者の関与が必要となった今も、セルフプランに頼らざるを得ない状況に変わりはなく、むしろ一般化しつつあることが気になるところである。法人内のサービス利用者、これまでの地域の利用者共に対策を講じなければならない段階にきている。

一方、個別給付以外の一般的な相談に加え専門的な相談支援の実施や、事業所支援や事例検討等研修の機会により地域の支援力向上の一助としての取り組みも実施した。市全体としての対応に関して官民協働で協議をおこない、体制整備等地域づくりにも関わっているところである。事業として求められる領域に対応するためには、根本的な相談支援体制を整備する時期が到来していると考えている。また、広域的な支援として、地域の体制整備等に関する動きとしては市外からの要請が増加し、今年度は対前年比で3倍強の対応件数となった。

2. (管理運営、相談支援体制の状況)

管理者	相談支援専門員	事務員	計
1 (兼)	2 (兼1)	2 (兼)	4

3. (地域の活動に関する取組み)

- 岡山市障害者自立支援協議会
 - ・全体の運営に関する会議、地区による事例検討会・課題整理、各種専門部会やワーキンググループに参加した。
- 岡山県障害者相談支援アドバイザー事業
 - ・県下市町村への支援（協議会、地区体制整備支援、困難事例のケース会議等）を実施。
- 相談支援専門員の養成および育成
 - ・法定研修である岡山県実施の初任者研修および現任者研修（講義、演習）に協力した。
 - ・サービスの質向上に向けた市主催の計画相談支援に関する研修の企画運営等に協力した。
- 県立支援学校
 - ・学校評議員（岡山南支援学校）として会議の参加。
 - ・各種研修、ケース会議の開催等に参加。

岡山市自立支援協議会	内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
	全体会・運営会議	1		1		1		1	1	1	1		1	
南西地域部会	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	24
計画相談WG	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1		1	11
福祉サービス部会	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	13
教育部会		1	1				1	1		1		1		6
障害福祉計画WG								1						1

職員派遣	開催月	内容	依頼先	開催地
	4月	岡山県アドバイザー事業（玉野市協議会相談支援連絡会）	玉野市役所	すこやかセンター
	4月	岡山県アドバイザー事業（早島町障害関係事業所連絡会）	早島町役場	早島町梅檀の家
	5月	相談支援従事者初任者研修実行委員会	岡山県庁	きらめきプラザ
	6月	岡山県アドバイザー事業（玉野市協議会相談支援連絡会）	玉野市役所	すこやかセンター
	6月	岡山県アドバイザー事業（早島町障害関係事業所連絡会）	早島町役場	早島町梅檀の家
	6月	相談支援従事者初任者研修実行委員会	岡山県庁	きらめきプラザ
	7月	岡山県立岡山南支援学校評議員会	岡山南支援学校	岡山南支援学校
	7月	岡山市特別支援学校地区別懇談会	市協議会教育部会	岡山南支援学校
	7月	相談支援従事者初任者研修A日程（講義演習）	岡山県庁	きらめきプラザ

職 員 派 遣	開催月	内容	依頼先	開催地
	7月	岡山県アドバイザー事業（岡山市計画相談支援研修会）	岡山市役所	南ふれあいセンター
	8月	岡山県知的障害者福祉協会相談支援部会	岡山県福祉協会	きらめきプラザ
	8月	相談支援従事者初任者研修A日程（演習2日）	岡山県庁	きらめきプラザ
	8月	岡山県アドバイザー事業（玉野市協議会相談支援連絡会）	玉野市役所	すこやかセンター
	8月	岡山県アドバイザー事業（早島町障害関係事業所連絡会）	早島町役場	早島町梅檀の家
	8月	岡山県アドバイザー事業会議	岡山県庁	岡山県庁
	8月	相談支援従事者初任者研修B日程（演習1日）	岡山県庁	旭川荘よしい川
	8月	岡山市障害者差別解消支援地域協議会	岡山市役所	岡山市役所
	9月	相談支援従事者初任者研修B日程（演習2日）	岡山県庁	旭川荘よしい川
	10月	サービス管理責任者養成研修講義（相談支援分）	岡山県庁	旭川荘よしい川
	10月	岡山県アドバイザー事業（早島町障害関係事業所連絡会）	早島町役場	きらめきプラザ
	10月	岡山県アドバイザー事業（玉野市協議会相談支援連絡会）	玉野市役所	すこやかセンター
	11月	岡山県アドバイザー事業（岡山市計画相談支援研修会）	岡山市役所	旭川児童院
	11月	岡山市障害者差別解消支援地域協議会	岡山市役所	岡山市役所
	11月	岡山県アドバイザー事業（総社市自立支援協議会）	総社市役所	総社市社協
	12月	相談支援従事者現任者研修実行委員会	岡山県庁	きらめきプラザ
	12月	岡山県知的障害者福祉協会相談支援部会	岡山県福祉協会	きらめきプラザ
	12月	岡山県立岡山南支援学校評議員会	岡山南支援学校	岡山南支援学校
	12月	岡山県アドバイザー事業（早島町障害関係事業所連絡会）	早島町役場	きらめきプラザ
	12月	岡山県アドバイザー事業（玉野市協議会相談支援連絡会）	玉野市役所	すこやかセンター
	12月	岡山県アドバイザー事業（市町村担当者会議）	岡山県庁	県立図書館
	1月	岡山県アドバイザー事業（岡山市計画相談支援研修会）	岡山市役所	南ふれあいセンター
	1月	相談支援従事者現任者研修実行委員会	岡山県庁	きらめきプラザ
	1月	中国四国救護施設協議会職員研修会	中四国救護施設協	ピュアリティまきび
	1月	社会福祉法人浦安荘職員研修会	浦安荘	浦安荘
1月	南区卒業時移行支援会議	県立支援学校	南福祉事務所	
2月	岡山県知的障害者福祉協会特別委員会	岡山県福祉協会	きらめきプラザ	
2月	岡山市障害者差別解消支援地域協議会	岡山市役所	岡山市役所	
2月	相談支援従事者現任者研修	岡山県庁	きらめきプラザ	
2月	相談支援従事者現任者研修	岡山県庁	きらめきプラザ	
2月	岡山県アドバイザー事業（玉野市協議会相談支援連絡会）	玉野市役所	すこやかセンター	
2月	岡山県アドバイザー事業（瀬戸内市協議会相談支援連絡会）	瀬戸内市	スマイル	
2月	岡山県立岡山南支援学校評議員会	岡山南支援学校	岡山南支援学校	
3月	岡山県アドバイザー事業（早島町障害関係事業所連絡会）	早島町役場	きらめきプラザ	
3月	中国ブロック相談支援専門員協会会議	中国地区協会	岩国市役所	
3月	相談支援従事者現任者研修	岡山県庁	きらめきプラザ	
3月	岡山県知的障害者福祉協会相談支援部会	岡山県福祉協会	きらめきプラザ	
3月	岡山県アドバイザー事業（岡山市計画相談支援研修会）	岡山市役所	南ふれあいセンター	
3月	岡山県知的障害者福祉協会特別委員会	岡山県福祉協会	きらめきプラザ	

4. (職員研修)

職 員 研 修	開催月	派遣内容	主催	開催地	職員
	毎月	市協議会地域部会事例検討会	市協議会	岡山市	相談支援員
	4月	中国地区知的障害関係施設長等会議	岡山県福祉協会	山口市	管理者
	5月	厚生労働省相談支援従事者指導者養成研修	厚生労働省	所沢市	管理者
	7月	岡山市計画相談に関する研修会	岡山市役所	南ふれあいセンター	相談支援員
	10月	岡山市人権研修会	岡山市役所	岡山ふれあい	相談支援員
	10月	基幹相談支援センター研修会	専門員協会	東京	管理者
	10月	相談支援セミナー	日本福祉協会	東京	相談支援員
	11月	岡山市計画相談研修会	岡山市役所	旭川児童院	相談支援員
	12月	ファシリテーター養成研修	岡山県庁	きらめきプラザ	管/相
	12月	中国ブロック相談支援研修会	相談支援協会	三木記念ホール	管/相
	12月	スーパービジョン研修	岡山県福祉協会	きらめきプラザ	管/相
	1月	岡山市計画相談研修会	岡山市役所	南ふれあいセンター	相談支援員
	1月	障害児相談支援研修会	岡山県庁	西川原プラザ	管/相
	2月	相談支援従事者現任者研修	岡山県庁	きらめきプラザ	相談支援員
	3月				
	3月	岡山市計画相談支援研修会	岡山市役所	南ふれあいセンター	相談支援員
	3月	就労移行に関する研修会	岡山市協議会	北ふれあいセンター	相談支援員

5. 相談支援等の現状 (別紙実績参照)

6. (次年度に向けての課題や取組みについて)

事業所への地域ニーズは、計画相談をはじめとする個別支援ニーズから、地域全体への働きかけを中心とするマクロ的な動きを要するニーズまでが顕在化してきた。現状においては、新規の計画相談及び地域移行支援・地域定着支援の提供は難しい。法人内外のサービス利用者への対応に関する近年の課題については、先送りが続いている状況であることから、次年度以降に向けた体制づくりに向けて法人全体として議論していけるようにしていきたい。

次年度に向けては、施策的な動きもある中で障がいのある方たちの地域生活支援を今一度考える機会になると思われる。限られた財源や人材の中で、如何に地域のニーズに対応できるかという命題を突きつけられることになるだろう。そのため、地域の事業者との連携や具体的にできることの確認や対応方法など、法人内外に関わらず見通し立てていくことになる。

5. (相談支援等の現状)

更新日	総件数 (実人数)	性別	
		男	女
H29.3.31	205	123	82

(エリア)

北区	中区	南区	東区	市外
23	13	156	2	6

(受付月)

前年度継続	4月	5月	6月	7月	8月	9月
126	4	9	8	5	2	8
10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
11	8	8	5	4	7	205

(年代)

未就学	就学児	成人	60～64歳	65歳以上
9	26	167	3	0

(障害の状況)

身体	知的	精神	重心	身体・知的	身体・精神	知的・精神	発達	難病	その他
31	86	28	3	14	5	5	29	3	0

(相談形態)

基本相談	障害児	計画相談	計画相談 地域移行	計画相談 地域定着	地域移行	地域定着
82	13	109	0	1	0	1

計画相談・障害児相談	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
サービス利用支援	9	4	5	8	13	5	4	5	5	10	12	14	94
継続利用支援	4	7	15	6	6	6	5	4	13	2	4	10	82

(相談の内容)

福祉サービス利用支援	障害・病状の理解	健康・医療	不安解消・情緒安定	保育・教育
183	6	7	8	3
家族関係・人間関係	家計・経済	生活技術	就労	社会参加・余暇活動
4	3	9	5	2
権利擁護	苦情	その他	※複数掲載事例あり	
2	—	3		

○障害支援区分認定調査(岡山市委託)

依頼機関	市内	市外	小計
南区南福祉事務所	60	0	60
南区西福祉事務所	12	0	12
北区北福祉事務所	1	0	1
北区中央福祉事務所	0	0	0
中区福祉事務所	2	0	2
東区福祉事務所	0	2	2
障害福祉課	40	49	89
健康づくり課	39	0	39
小計	154	51	
県外市町依頼数	2		
総計	207		

○平成28年度委託契約件数:300件

○法人内事業所の協力を得て体制を整えている。

実施事業所	市内	市外	その他	合計
泉の園	8	5		13
桑野フレンドリーハウス	20	—		20
共同生活援助	23	5	1	29
瀬戸相談支援	11	21		32
岡山南相談支援	82	20	1	103
パンフルート	10	—		10
合計	154	51	2	207

平成 28 年度【岡山南障害者地域生活支援センター「パンフルート」】事業報告

1. はじめに

障がいを持っていても在宅で暮らしたいとの要望は多い。国も地域での生活を推進している状況の中、泉学園としても居宅介護事業を強化していかなければならないと考える。

障がいを持たれながらもアパート等で一人暮らしをし、衣食住で困窮されているケース、同居家族の負担が大きくなっているケース、介護者（家族）の高齢化による負担増のケース等居宅介護・地域支援事業等の福祉サービスに掛かる期待は大きい。

2. 職員の状況について

- ・常勤職員 4 名、非常勤職員 2 名、登録ヘルパー 3 名、(7 月登録ヘルパー 1 名減、7 月より非常勤職員 1 名増)、合計 9 名体制で事業運営にあたる。
- ・登録ヘルパーさん、移動支援しか受けられない方、一日 1 件のみしか受けられない方とあまり稼働出来ていない状況は前年と同様。
- ・地域のニーズ・依頼に対して人員が不足している状態。

3. 苦情、ヒヤリ・ハット、事故等について

ヒヤリ・ハット 4 件、その他 1 件あり。

- ・一ヶ月の訪問予定表記入漏れにて派遣漏れしてしまう。(その他：本人・ご家族に謝罪する。)
- ・調理中、利用者様宅の茶碗を割ってしまう。(ヒヤリ・ハット：本人・ご家族に謝罪。弁償は良いとの事。)
- ・行動援護中、バス内に利用者の傘を忘れてしまう。(ヒヤリ・ハット：ご家族に謝罪し引き取りに行く。)
- ・移動支援の予定を忘れており遅れて支援に入る。(ヒヤリ・ハット：本人・ご家族に謝罪する。)
- ・移動支援中、療育手帳を改札口で落としてしまう。(ヒヤリ・ハット：忘れ物センターに問い合わせる。届いており引き取りに行く。本人・ご家族へ謝罪する。)

* 事故・苦情はありませんでした。

4. 経営状況

- ・居宅介護事業（家事援助・身体介護）は徐々に増加し受けられる日時は対応している。(前年より 495.5 時間増)
- ・業務内容比率時間は法人内グループホーム利用者の社会参加・余暇活動の移動支援、法人内への送迎の有償運送が高い。
- ・新規サービス利用依頼については、有償運送依頼が多い。(月に最低 1 件はあり。) 居宅介護は発達障害・精神障害の家事援助・通院等介助の依頼が多い。
- ・移動支援は法人内利用者の対応で他からの依頼は受けられていない状況が続いている。
- ・前年より収入は+276,337 円も人件費でマイナス経営となる。
- ・稼働時間収益率では移動支援・福祉有償運送に掛かる稼働時間が多く収益率が低い上、人件費が掛かっている事がマイナス要因。

5. サービス利用状況について

各サービスの利用状況については以下の通りです。

(1) 居宅介護事業

(家事援助・身体介護・通院介助・通院等乗降介助・重度訪問介護・行動援護)

稼働契約者数	支援時間合計	苦情件数	事故件数
29名	3,503.75時間	0件	0件

* 昨年度支援時間 3,008.5時間

- ・利用者数前年23名。前年比6名増の29名となる。
- ・収入 12,243,600円 前年比+1,286,413 (繰入金を除く純収益)
- ・新規依頼の傾向として発達障害・精神障がいの家事援助・通院等介助依頼が多い。

(2) 移動支援事業

稼働契約者数	支援時間合計	苦情件数	事故件数
30名	2,764.5時間	0件	0件

* 昨年度支援時間 3,265時間

- ・収入 4,902,510円 前年比▲1,009,082円 (繰入金を除く純収益)
- ・30名中17名が法人内グループホームの利用者。稼働時間は一回約5時間。

(3) いきいきいずみサービス事業

延べ利用者数	支援時間合計	苦情件数	事故件数
2名	3.5時間	0件	0件

* 昨年度支援時間 6時間

- ・収入 4,135円 前年比▲17,812円
- ・移動支援・通院等介助へ変更した為、いきいきの利用は減少している。

(4) 福祉有償運送事業

稼働契約者数	利用件数	総走行距離	苦情件数	事故件数
11名	753件	9,297km	0件	0件

* 昨年度利用件数 832件 昨年度走行距離 9,105km 登録者数 71名

- ・収入 1,216,000円 前年比+16,818円
- ・利用件数は前年とほぼ同数。利用内容は法人内への送迎・通院等介助時の送迎がメインである。
- ・新規依頼は毎月のようにあるが依頼時間の関係で受けられない状態。

6. 今後の課題

ヘルパー不足は課題である。ニーズはあっても対応出来ない状況は続いている。(ヘルパー不足は全国的問題でもある。) 地域のニーズに答えていくためにはヘルパー人員確保・質の向上は必要である。

障害者地域生活支援センター「パンフルート」としての方向性が変化していく社会のニーズに対応

出来ていないと思われる。事業立ち上げ時の業務内容から現代のニーズに合った業務内容に見直していかなければならない。

地域で障がいを持たれながら暮らし、居・食・住がままならない方が多くおられる。(独居で日常生活に困窮され支援を求められている方・同居家族の介護負担が大きくなり困窮されている方が特に多い。) 泉学園として困窮しながら地域で暮らされている方々への支援のあり方を考えなければならぬ。

居宅介護事業所へのニーズとして発達障害・精神障害を持たれている方への支援が急増している状況である。現在の社会ニーズへ今の体制・業務内容をどう意識改革していくか質の向上も含め課題である。

知的障がいを持たれている方への社会参加・余暇活動、移動困難者への有償運送事業は当然大切に必要不可欠な事業であるため継続していかなければならない事業であるが、「パンフルート」の課題は業務内容が法人内の移動支援に偏り過ぎている点である。

地域の障がいを持たれている方へのニーズに応えていくためには業務内容のバランスを考えていく事が今後の課題である。

平成 28 年度【障がい者デイセンターさくら】事業報告

今年度は、ご利用者の他界・退所・介護保険への移行・グループホームへの入所等、環境に変化が生じる方が多かった。そんな姿を間近に見ながら、元気で過ごせる今このひと時を如何に充実して過ごしていただくのか、私達の役割は大きいと感じる。今後更に活動・作業の充実を図り、ご利用者が生き生きと笑顔で過ごして頂けるような運営を考えていかなければと思う。

《生活介護事業》

ご利用者のニーズに沿って活動内容を整えることで、ご利用者の楽しみを増やす努力を行った。また個別支援計画を意識した取り組みが定着し、個別支援の充実につながっている。今後更にご利用者の気持ちに寄添った支援に努め、笑顔溢れる事業所にしたい。

1、定員並びに利用状況（3月31日時点）

○定員:10名（変更なし） ○契約者数：16名（7月20日に1名他界される）

○4月～3月平均利用率：115.5%

○障害支援区分：平均 5.6（区分6→12名、区分5→3人、区分3→1人）

2、職員配置 変更なし（報酬単価算定基準に添った人員配置2：1）

3、主な支援内容

○個別活動（AM）：創作・花壇・パズル・ビーズ通し・ぬりえ・機能訓練等）

個のニーズを把握し、希望・要望に沿いながら活動を提供した。花壇づくりは地域美化にも繋がっており好評である。

○集団活動（PM）：クラブ活動（毎週金曜日）・外出・創作・レクリエーション・音楽・カラオケ・おやつ作り等

季節感のある活動を取り入れた。また昨年からは始めたクラブ活動は定着し、ご利用者の楽しみの一つになっている。創作活動では、目的を確認し意欲的に取り組めるように工夫した（ご家族へのプレゼント・福浜公民館祭り展示等）

《就労継続支援B型》

今年度初めて施設外就労を導入した。まだ軌道に乗るところまでには至らないが、地域の中で働く喜びと大幅な工賃アップにつながった。次年度も前向きに取り組むことで、更なる工賃アップを図りたい。

1、定員並びに利用状況

○定員：30名 ○契約者数：40名 ○利用率平均：111.2%

2、職員配置 変更なし（報酬算定基準に添った人員配置6：1）

3、主な作業内容

○スイーツ（食品加工）→*収入：3,345,154円（前年度より409,202円増）

*支出：2,559,156円（原材料費1,163,670円、経費610,006円、工賃785,480円）

今年度は長年の目標であった年収300万円を超えることができ最高に嬉しい年であった。元気の輪・セルフ岡山からの注文が増えた事が大きく影響している。次年度は岡山市障害福祉課主催ブラッシュアップ事業に参加し、商品価値を高める予定である。

○つくし（製品加工）→*収入：681,788円（前年度より55,031円減）

*支出：841,745円（原材料費0円、経費2,025円、工賃839,720円）

自動車業界の不況に伴いバリが途絶え気味になることで収入がダウンしてしまった。

今年度は箱折り作業を止め、新たに軍手作業を導入して頑張っている。

○クローバー（手芸・他）→*収入：796,268円（前年度より52,666円増）

*支出：1,001,271円（原材料費107,516円、経費、16,595円、工賃877,160円）

刺し子布巾の大量注文、HOYAプロジェクトに参加することで収入は伸びた。しかし黒字まで辿り着かず残念であった。

○施設外就労→*収入：337,349円

*支出：189,291円（原材料費0円、経費11,038円、工賃178,253円）

今年度初めての取り組みであったが作業収入はアップした。収入は施設外手当として参加されたご利用者の工賃に反映させた。また全利用者対象にボーナスとして支給した。

○カフェつみ木→*収入：9,325,133円（前年度より79,080円減）、

*支出：9,648,646円（原材料費699,002円、経費699,002円、工賃1,207,000円、職員人件費3,984,829円）

人件費が増えた事、土曜日営業を減らしたことが影響してか赤字経営となってしまった。次年度は営業日を増やすことで経営を安定させたい。

4、利用者工賃

○月平均：7,999円(前年度6,358円)。時給平均：93円（前年度77円）。但しつみ木は時給一律200円。今年度は作業収入が増え、工賃アップに繋がり嬉しい年であった。

《多機能型事業所さくらとして》

○地域との交流：今年度新しい取り組みとしては、高齢者施設との交流・ご利用者主体のボランティアサークルの立ち上げがある。年々地域交流は広がりつつある。

*地域住民参加型餅つき*福浜公民館まつり*バザー参加等

○全体行事：日帰り社会体験（6月）、クリスマス忘年会（12月）、成人を祝う会（1月）。

○土曜開所:*生活介護→11名利用、*就労継続→平均22人利用

外出(社会見学)を中心としながらレクリエーション的内容を取り入れている。

○健康管理：定期健康診断(9月)、インフルエンザ予防接種（11月）

○給食サービス：給食会議→8月・2月に実施。

○送迎サービス：送迎希望者→*生活介護→15人 *就労継続→17人

○ヒヤリハット：32件（転倒・送迎忘れ・所在不明等）

○事故：(転倒・公用車の損傷・送迎変更伝達ミス・服薬ミス等)

○苦情：1件→「弱い立場の利用者の気持ちに寄り添った支援をして欲しい」

平成 28 年度【デイセンターなずな】事業報告

平成 28 年度は、63 名（玉柏 36 名、瀬戸 27 名）でスタートした。年度中、介護保険に移行された方 1 名、新たな利用者の方 2 名と大きな変化は見られなかったものの、ショートステイ利用で休まれる方、入院される方も少しずつだが増えて来られている。故に平均して 7 割前後といった利用状況はほとんど変わらずである。職員については、年度途中での退職者があったが補充もでき、年間通してわりと安定した状況で推移した。

昨年 7 月、相模原で起きた事件は大きな衝撃、大変ショックな出来事であり、皆で話し合ったり防犯についても討議した。防犯については地域交流の流れに相反する部分もあってなかなか進んでいないが、人権や差別解消等については、委員会を中心に学習会や日々の標語等で常に身近で振り返るようになっている。

【生活介護事業】

1. 平成 28 年度事業の概要（年度末現在）

- ◇ 定員 45 名 年間平均利用率～70.3%
(契約者数 64 名～新規契約 5 名、契約解除 1 名) ※契約解除事由～施設入所
- ◇ 契約者の障害支援区分 (平均障害支援区分～5.9)
区分 6 (57 名) 区分 5 (4 名) 区分 4 (1 名) 区分 3 (2 名)
- ◇ 契約者の年齢～平均年齢 28.4 歳
10 代 (3 名) 20 代 (43 名) 30 代 (11 名) 40 代 (3 名)
50 代 (1 名) 60 代 (3 名)
- ◇ 契約者の方の住所地として
岡山市 (48 名) 赤磐市 (12 名) 瀬戸内市 (3 名) 備前市 (1 名)
- ◇ 職員状況として
管理者 1 名、副管理者 1 名、サービス管理責任者 1 名、生活支援員 21 名 (常勤 16 名、非常勤 5 名)、看護師 4 名 (常勤 2 名、非常勤 2 名)、作業療法士 (非常勤 2 名)
配膳職員等 (非常勤 2 名)、嘱託医 1 名、事務職員 2 名 (常勤 1 名、非常勤 1 名)

2. 実施事業の内容

① 医療・健康管理

- ◇ 3 月末現在で胃ろう (14 名)、気管切開 (6 名)、尿パウチ及びカテーテル留置 (3 名)
- ◇ 日々のバイタルチェックの他、個々の体調や健康状態の把握に努めている。また、固有の疾病や入院後の状態変化等についても学び知る機会を設けて、誰でも状態変化に気付いて対処できるようにと研鑽を重ねている。
- ◇ 入院される方の回数も増えたり (身体の) 弯曲も進んでくるなど、健康や医療に係る割合は年々大きくなってきている。医療機関や他事業所、ご家族との連絡や連携を今後とも十分にとっていく必要がある。
- ◇ 年度後半より看護師 1 名の確保が出来て 4 名体制となり、医療の必要な方のケアも行き届き易くなった。次年度は支援員も研修や実習を経て資格を取得していき、ある程度のケアができるようになれば利用される方の生活の幅が広がったり、職員も動きやすく働きやすくなるのではないかと考えている。

② 日中生活、日中活動支援

- ◇ 基本的な日中生活支援（食事、排泄、休息、入浴など）を行っている。ご自分で身体を動かすことが困難な方々がほとんどなので、日中支援の中での自発的な動きを大事にしたり、姿勢や体位にも配慮してできるだけ楽に過ごして頂けるよう努めている。
- ◇ 日中活動においては個々の希望や動き、特性や興味、季節や気候等、環境面の様々な要因を考慮して日々取り組んでいる。
- ◇ 季節や気候の良い時はできるだけ散歩や外出して季節感を味わって頂いたり、地域の人々とのふれあいも意図して持つようにした。
- ◇ 来所の時間がまちまちなので遅く来られた方の途中参加は無くし、受け入れしながら別の活動メニューに参加出来るよう組んでおり、活動にも集中できている様子である。
- ◇ 昼食に時間を要すことから午後の活動時間が少し減少したが、内容や動きの工夫等を図って楽しみのある、充実した時間となるよう努めている。

③ 入浴

現に入浴されている方の回数増のご希望や、新たな家庭状況等で入浴を希望される方は多い。また、新規利用希望の方も必須である。状況等推察できるので可能な限りお応えしているが、まだまだ不十分である。

- ◇ 玉柏においては毎日4名～9名、1週間延べ32～34名（内5名は普通浴槽にて）の方が入浴されている。お休みの方が居られた場合に希望ある方に声かけて入って頂いたり、休みの重なりや医療面でのニーズ等を鑑みて出来るだけ柔軟に対応している。
- ◇ 瀬戸では週3日（火、木、金）が入浴日で、延べ13名の方が入られている。

④ 送迎

現在52名の方の送迎を行っているが出来る日出来ない時があり、まだまだ十分なお応えはできていない。ご家族やご家庭の急な状況によるご依頼等に対しては、できるだけやりくりしてお応えするようにしている。ルート of 練り直しや時間差等の工夫の他、送迎要員の補充を急ぎたい（なかなかであるが）

今年度も大きな事故無く安全に送迎業務が行なえていること感謝至極。

⑤ 行事等

10周年記念の旅行や集いを皆で取り組み実施した。多くの方々のご協力やご支援のおかげと感謝する～ありがとうございました。

今年度新成人の祝いは玉柏、瀬戸各2名居られたのでそれぞれで執り行った。他、クリスマス会や運動会等、それぞれで工夫を凝らして取り組むことができた。

⑥ 土曜開所

延べ383名（1日平均17.7名）の方に利用頂いている。利用される方はほぼ固定している。原則送迎をしない（通常のルートと違うこと、職員数や対応困難により）こととしていたが、それぞれの事情により送迎している方も居られ、難しい課題として残っている。

3. ボランティアの方・実習生等の受け入れ

◇ ボランティア

瀬戸に於いては開所以来11年間来て下さっているボランティアの方が居られ、利用者の方々との距離も非常に近くなっている。その他音楽ボランティアの方、踊りやマジック等様々な分野で楽しませて頂き繋がりを深めている。受け入れの不備があったので、次年度からは担当者中心に徹底していきたい。

◇ 各支援学校実習生

各支援学校からの実習生（高校 2、3 年生）を受け入れた。

- ・岡山東支援学校～3 名（延べ 3 日間）
- ・岡山支援学校～5 名（延べ 5 日間）

◇ その他

下記実習生やボランティアの方を受け入れることができた。

- ・介護等体験実習として環太平洋大学生 19 名（玉柏 11 名、瀬戸 8 名）
- ・瀬戸高等支援学校の職場体験実習として 1 年生 40 名（5 日間）、1 年生福祉コース 8 名（2 日間）、3 年生 1 名（年間 17 日）、2 年生 1 名（10 日間）
- ・夏祭りボランティア（岡大生 5 名）
- ・夏ボラ 1 名

4. 事故、ヒヤリ・ハット及び苦情やご意見等について

- ・医療機関に罹った事故～2 件（転倒、打ち身）を事業者指導課と支給決定市町村に報告した。それぞれ 1 回の受診で治まっている。思い込みや不注意で起きた事故であったので、事故報告の他、全体会議で話し合っ確認し注意喚起している。

- ・ヒヤリ・ハット件数～101 件（外傷、転倒・転落しそうになる、打ち身、怠薬、所在不明、リフト操作ミス、車両損傷、車椅子ベルト装着忘れ、食物詰まり、連絡忘れ、連絡ミス、利用者の方同士の接触、歯ブラシの誤使用、誤食、気切カニューレ抜管、データ誤削除、酸素ボンベの開栓忘れ、移乗時の足のつまずきなど）

上半期に集中して挙がっている（72 件）が、この傾向は例年と変わらず。

- ・苦情～3 件（運転中のスマホの使用？、運転が荒い、着脱時に声掛けが無い）

それぞれ、利用者ご本人、一般の方、ご家族の方からの苦情である。特に車両の運転に関しては重大な危険性を孕んでいるので、当事者の意識を確認した上で改めて全体で話し合ったり、何回かに亘って注意を促した。声かけの必要性については、人権に関する会議や個別支援計画会議の中で注意し合い確認を続けている。

【日中一時支援事業】

3 月末現在、契約者 10 名（岡山支援学校、岡山東支援学校、誕生寺支援学校）。

利用形態は、これまでの長期休み（春、夏、冬）に加えて日中の数時間を利用される児童の方も居られる。瀬戸事業所での事業であるが、他の利用者の方と同じプログラムになることもあったり、ふれあう機会もあってお互いの刺激や楽しみともなっている様子。夏の長期休暇中はアルバイト生も加えて受け入れを行った。医療的ケアの必要な方のニーズが高いこと、日中の数時間でも必要とされている方が居られることなど、まだまだ様々なニーズを拾い上げることが不十分であると思う。今後、日中一時支援事業としての体制固めと共に、ニーズに副った受け入れに柔軟に取り組み、利用者数増や状況によっては玉柏職員の協力も得ながら、今後に繋げる事業として総体で取り組んでいきたい。

平成 28 年度【瀬戸障がい者相談支援事業所】事業報告

障がいがある全ての方に、福祉サービス利用に当たっては原則サービス利用計画が必要となって数年が経過した。岡山市ではまだ半数あまりに止まっているという話である。今後はどうなるのか、状況を見守りながらの現状である。私ども瀬戸障がい者相談支援事業所がお受けしている計画相談件数は児童含め現在は 120 件余りとなっている。一方、生活相談や福祉サービス探し、年金や関係機関とのやり取り等、計画相談の契約者ではない方の相談業務、所謂、基本相談も増えてきている。昨年度途中より相談支援専門員を 1 名（兼務の為実質 0.5 人）増員し、対応にあたってきた。新年度は常勤 2 名体制とし、落ち着いて相談業務を遂行できる体制を目指している。計画相談の業務、計画やモニタリングの報酬に頼る運営の中では経営的には相変わらず厳しい現状があり、当面は解決の目途はたっていない。

以下、事業項目ごとに平成 28 年度の実績をまとめ報告とする。

1) 平成 28 年度瀬戸障がい者相談支援事業所の体制

管理者 1 名（デイセンターなずな管理者兼務）、相談支援専門員常勤 2 名（1 名は管理者兼務）
非常勤 2 名（デイセンターなずな支援員と兼務 1 名（10 月以降））、事務員 1 名（兼務）

2) 主な具体的業務

サービス利用計画の作成、モニタリング、その他一般的な相談及び支援にかかる相談業務、それに伴う関連機関や事業所訪問及び調整会議やケア会議への出席。各機関との連絡調整、移行支援会議、研修や勉強会への出席等。

3) 地域との関わりにおける具体的な動き

- ・ 自立支援協議会（東部地域部会）勉強会への出席、毎月開催。
行政機関、各相談支援事業所、東区保健センター等の参加で事例検討や情報交換等
- ・ 赤磐市障害者雇用に向けた職安との懇談会に出席
- ・ 瀬戸つながり隊の取り組みの推進
瀬戸地区社協や公民館、瀬戸町内の障害福祉サービス事業所で平成 27 年度末に発足、瀬戸地域が人に優しい街となるよう地域啓発に向けた取り組みと組織。ほぼ毎月の定例会、第 1 回瀬戸つながり隊広場の開催、瀬戸町内の事業所相互訪問、地域イベントへの参加等々。
- ・ 地域民生委員会研修会で障害者福祉、相談支援事業について説明等。

4) 各種研修会への参加（※10 月以降）

- ・ 東部地域部会計画相談支援勉強会（毎月 第 3 木曜日）
- ・ 11 月 4 日 岡山市障害福祉課 計画相談に関する研修会
- ・ 12 月 3 日 中国ブロック研修（岡山県相談支援専門員協会）
- ・ 12 月 18 日 岡山リハビリテーション講習会
- ・ 1 月 12 日 岡山県計画相談支援に関する研修会
- ・ 1 月 20 日 障害児相談支援に関する研修会
- ・ 3 月 4 日 高次脳機能障害講座

5) 相談利用者状況

福祉事務所別計画相談契約者数（平成 28 年 3 月 1 日現在、総数 120 人）

市別	岡山市					赤磐市	備前市	和気町	倉敷市	保健センター関連
区別	東区	瀬戸支所	中区	南区	北区					
者	27	14	16	2	8	22	1	0	1	8
児童	10	3	6	0	0	0	1	1	0	

相談形態別人数（同上、140 人）

基本相談	障害児	計画相談	地域移行	地域定着
20	25	95	0	0

計画相談（児童含む）障害別の状況（同上） ※難病と高次脳については再掲

状況	身体	知的	精神	重心	身・知	身・精	知・精	発達	難病	高次脳
者	14	43	8	17	9	4	0	0	6	4
児童	0	5	0	4	4	0	0	12	0	0

基本相談の内容別人数（平成 28 年度総数、相談内容別人数⇒※再掲あり）

福祉サービスの利用 （計画相談契約者除く）	就職相談、 アフターケア等	基礎年金手続	成年後見	補装具日常生活用具等
4	6	8	3	4
各種手当の申請	手帳の取得等	退院後の生活相談	引きこもり等	生活相談他
1	2	3	3	14

計画及びモニタリングによる請求件数

内容	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
モニタリング	7	2	12	10	4	0	0	10	4	16	17	1
計 画	5	7	4	8	16	9	8	7	8	5	17	7

6) 瀬戸における相談支援業務の今後

この1年も計画相談の業務を通常の勤務の中で責任をもって進めることの難しさを感じながら携わってきた。限られた時間の中、求められる業務をこなしていくスキルや対応力の及ばないことを感じることもあった。スキルアップを図るべく研修等への参加も時間が取れないことも含め十分だったとは言えない。初回面談をお受けしてからそのニーズ対応等が遅れてしまう現状もあり、不満や不安に繋がる方もあったように思われる。この1年は特に入院生活から地域生活に向けた支援、病気や事故で障害を抱え、在宅生活に生じた困難さの解消に向けた支援、ご家族が急に入院されることでのご本人の支援体制作り等、人の人生を左右するような関わり、対応が求められる場面があり、責任の重さを痛感することも多かった。

又、当相談支援事業所として、障害の有無に関わらず共に安心して生活できる地域づくりを目指してのネットワーク作りを進めてきた。繋がり作りの推進に励んだ1年でもあった。その瀬戸つながり隊がスタートした。相互交流や地域イベント開催にまず活路を見出してきたが、今後は日常に根付いた組織としてより強固な繋がり作りに努力していきたいと考える。

平成 28 年度【ワークショップちどり】事業報告

はじめに

平成 28 年度は 1 名の支援学校卒業生を迎えて 21 名でスタートした。11 月には就労継続 A 型に 1 名就職され 20 名となった。家庭的な雰囲気の中で、楽しく過ごしておられる姿がみられる。就労を通しての達成感や工賃アップの取組みにより工賃を得る喜びを感じて貰えたと思う。また、開所時より利用されている方の高齢化も大きな課題としてある中、介護保険と併用される方への支援、健康面への配慮に努めた。ご利用者一人ひとりの人権を尊重し、ニーズに沿った支援に心がけ、日々の業務に責任が持てる職員集団となるよう努めた。その一方、ご家族との関わり、地域との繋がりへの取組みが進まないという大きな課題も残されたままである。

1、定員及び利用者状況

- ・定員：20 名（変更なし）
- ・契約者数：21 名 ＊就職 1 名（11 月→就労継続 A 型）
- ・4 月～3 月平均利用率 84%

2、職員配置

- ・管理者・サビ管 1 名（兼務）
- ・目標工賃達成指導員 1 名
- ・生活指導員 3 名
- ・職業指導員 1 名（パート）
- ・事務員 1 名（兼務）

3、作業及び活動の取組み

〈作業〉

・紙製品

新商品の開発・公民館で行っている絵手紙教室への DM 発送で売上げに繋げる目標でスタートしたが、思うような売上げに繋がらなかった。長年、名刺の校正をされているご利用者が入院された為、職員対応で行った。お花付けも職員対応で進めた。校正作業・お花付け作業の後継者が育っていない現状が続いている。今年度より谷川先生に紙漉き顧問として関わって頂いている。

・ドックフード

業者と月 1 度ミーティングを行い作業の進捗状況・課題点の話し合いを行った。作業の種類も増え多忙だったが、手間が掛かる作業だった為売上げ増には繋がらなかった。その方に合った自助具を作成したことで、ご利用者の出来る作業がふえた。作業単価の見直しが課題である。

・農園・その他

「安心・安全に努め年間を通して安定した作業を行う」を目標でスタートした。法人内の事業所の協力を得ながら進められた。結果、たくさんの作業を頂き、ご利用者の出来る事も増え自信に繋げることが出来た。お揃いの作業用の T シャツを着用し生き生きと作業へ向かわれる姿がふえた。工場の従業員の方とも交流が増え、社会体験の場にも繋がっている。

・委託販売

店頭で販売しているひだすきの備前焼、ネイチャーファームのお花が順調に売れている。バザ

ーでは、乾燥こんにゃくの売上げが伸びた。新商品の粒こんにゃくも徐々に売上げに繋がっている。

各作業の平成 28 年度収入状況について以下の通り（％は予算対比）

- ・紙製品作業（収入 1,183,563 円）99%
- ・ドックフード（収入 1,185,101 円）102%
- ・農園・その他（収入 1,524,018 円）105%
- ・委託販売（収入 523,159 円）101%

利用者工賃：平均工賃支給額 時間給：175 円 月平均額：13,091 円（総支給額 3,037,130 円）
工賃向上 3 ヶ年計画 28 年度目標平均月額、時間給 173 円を上回る 175 円と結果を出せた。

〈活動〉

- ・第 3 土曜日の開所日は担当者を中心にご利用者の意見を聞き、季節に合った行き先・多くのご利用者が参加出来る内容を検討し、日頃の疲れを癒せる行事に努めた。10 月の泊を伴う社会体験では、利用者ミーティングを活用しご利用者主体で行き先・プランを検討し実施した。昨年度から始めた月 1 度の地域清掃も定着し、地域の方から声を掛けてくださることが増えた。

4、苦情解決

〈ヒヤリハット〉

- ・転倒（1 件） その他（1 件）

〈事故〉

- ・公用車損傷（1 件）

5、今後の課題

- ・ご家族との関わりを深め、可能な限りご利用者のニーズに応えていきたい。
- ・平均利用率が 80%である為、契約者数の増員が出来るよう支援学校と連携を図りたいと考える。
- ・地域活動を活発に行い、地域に密着した事業所作りに取り組んでいきたい。
- ・谷川先生に同行して頂き、紙漉き工房へ見学に行き手すき和紙の品質向上を目指していきたい。